

3. 面接について

I はじめに～語る力をつけよ～

入学試験に「面接試験」がある・ないに関わらず、この章を一読してほしい。なぜなら、語る力はどの分野においても必要なことであり、一朝一夕に育つものではないからだ。

「自律・創造・対話」を校訓として掲げる本校で学んだ諸君には、卒業する段階で十分な対話力をつけられていることが期待される。この「対話力」が意味するところは、友人と楽しく話ができるというだけではない。目上や年上の人、初めて出会う人、大勢の人々などを前に、自分の思うところをきちんと話し、理解してもらえる力である。また、相手の言うことを正しく受け止めて、自分の考えに反映させられる力でもある。自分に問いかけて欲しい。そういう対話力が今の自分に十分身についているかどうかということ。

現実には、「十分でない」と感じている生徒も多いであろう。十代の若者のことである。たいていうまくなくても、いたしかたない。しかしそんな自分に甘んじていてほしくない。対話力はすなわち「生き抜く力」でもあるからだ。

自分のために、自分の将来のために、語る力をつけよ。決め手になることは場数を踏むことと他流試合をすることである。場数とは、日々の対話を重ねること。他流試合をすることは、あまりよく知らない人相手に話す機会があれば、それを利用して経験を積むこと。大学入試に面接試験があるのであれば、まさに他流試合の第一歩となるであろう。大学入試になれば、卒業後の就職面接などが第一歩となるかもしれない。後者のハードルは前者より遙かに高い。いずれにせよ、自分の思うところを深めて考える・表現する力をつけること。これは必須である。

II 面接者が求めること

1. 人物像

自分が面接官になったと仮定してみよう。どのような人物を合格（会社なら採用したい）させたいだろうか。

<自己チェック ①>	当てはまるものに○
①しっかりした意志を持って行動できる人物か	
②専攻に適性があるか	
③将来性をもっているか	
④ものごとにじっくり取り組めるタイプか	
⑤適切なコミュニケーションがとれるか	
⑥臨機応変な対応ができるか	
⑦協調性やバランス感覚がありそうか	

②専攻に適性があるかどうかの判断は難しいかもしれない。しかし少なくともその分野が学問として好きであることが最低条件であろう。④～⑦の項目は、仕事をする者として特に求められるものであろう。○がつかない項目があれば、改善するよう日常から意識してみよう。

これから身につけることも十分可能である。

2. 志望の動機

1. をより具体的に見ていこう。面接で最も重視されるのは、言うまでもなく「志望の動機」である。「この学問を学びたい」「この職業に就きたい」という強い志望があるのも大事だが、単に「なりたい」というだけでは説得力はない。「なぜそうなのか」「それをどう活かしていくのか」「実現するために自分は何をしてきたか・するつもりか」ということを、論理的に説明する必要がある。

＜自己チェック ②＞	試されること
①自分はこの大学・学部で何をしたいのか	「志望動機・目的意識」
②持続して取り組んでいくだけの体力と気力はあるか	「適性」
③その分野で必要とされるだけの基礎学力はあるか	
④どんな性格か	
⑤今まで（高校生活）何をしてきたか	「実行力」
⑥それらを適切に表現できるか	「論理的思考力・コミュニケーション力」

面接試験の有無に関わらず、p.□を参考に、現時点での「自己分析カード」を作ってみよう。文字化することで、より深く考えられるようになる。具体的に表現すること。説得力ある文章にするためには例証してみると有効である。曖昧にしか書けない部分があるなら、そこが弱点だと言える。行き詰まったら家族や友人に問いかけてみるのもいい方法である。自分を客観的に見ることは大人への第一歩。社会で求められるのは、いい意味で「大人」である人物なのである。

III 相手を知る

受験校についてよく研究をすることも必要不可欠である。先方が公開している情報を入手し、しっかり読み込んで分析せよ。資料を読み取る力は学科試験でも問われるところである。

必要なこと	情報入手方法
① 情報をしっかり入手する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内／募集要項 ・インターネットウェブサイト
② 生の声を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>オープンキャンパス</u>（自分の目で確認する） ・大学（合同）説明会（先方が松山に来られる機会を利用する） ・本校卒業生から話を聞く
③ 自分の印象や感想を言葉にして残していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する新聞・ニュースに注目する ・メモを取り、整理しておく

最近ではどの大学も、受験生のためのオープンキャンパスや説明会に力を入れている。1つの大学で、時期や場所を変えて複数回行くところもある。そういう情報を見逃さず、できる範囲でなるべく参加すること。

これだけ多く開かれている状況では、もし参加していないとすると「なぜ来なかったのか」というのが面接時の質問になり得る。(注※) 受けたと思う大学を目にすることで、モチベーションが上がり、学習意欲が沸く。5年生から参加しておくのがお薦めである。

教授陣や学生さんと接し、校風やキャンパスの空気を感じる機会を持てたら、必ずそれを記録に留めること。「行きっぱなし」では時間と費用がもったいないし、いざというときに使えない。具体例を含む感想を書くようにするとよい。

大学そのものだけでなく、学部・学科について研究することも大変重要である。進学したい分野に関する本を読む、できればその大学の教授陣の著作に目を通すといったような気概が必要である。全てを理解するのは難しいとしても、少しはわかる、ないしは面白いと思うようであれば、その分野への適性がないのかもしれない。受験生に時間がないとはいえ、朝の読書の時間などを利用して時間を捻出し、いろいろ読んでいくこと。

これらを通して、より具体的でしっかりした志望の動機が構築されていくのである。

注※ オープンキャンパスで訪問した大学とは異なった大学を受験するケースもままある。それをカバーするのは訪問以外の情報入手である。4年生や5年生の(少しは)時間があるうちに大学についての情報を入手する方法(インターネット検索など含む)を身につけておくと、いざ受験というときに役に立つ。

IV イメージをつかむ

実際の面接をイメージしてみよう。

1. 面接の形式

- (1) 個人面接・・・受験生1名ずつ面接を受ける。大半がこのケース。
- (2) 集団面接・・・複数の受験生が一度に面接を受ける。ディベートやディスカッションなどの活動を含むこともある。

質問に対してはじめに挙手した数名だけが答えるチャンスを与えられるというケースもある。つまり、挙手して指名されなかったら答えられない=高い評価は得られないということ。元気よく挙手することも大事。

他の受験生の発言をよく聴いて対応することも必要。同じことを繰り返さない臨機応変さが問われる。他人の発言中に気を抜いていると、悪い意味で目立ってしまう。

いずれの場合も、面接官は通常3名前後。中には7人というケースもある。緊張してしまうのも無理ないところだが、その雰囲気になまめず、リラックスして普段の自分らしさを出していけるように。練習することで少しずつ慣れていける。

面接官の中にはわざと素っ気ない対応をする方もいる。厳しい社会に出るに当たって、多少

のことにへこたれない強さを身につけること。面接試験はその第一歩ともなる。

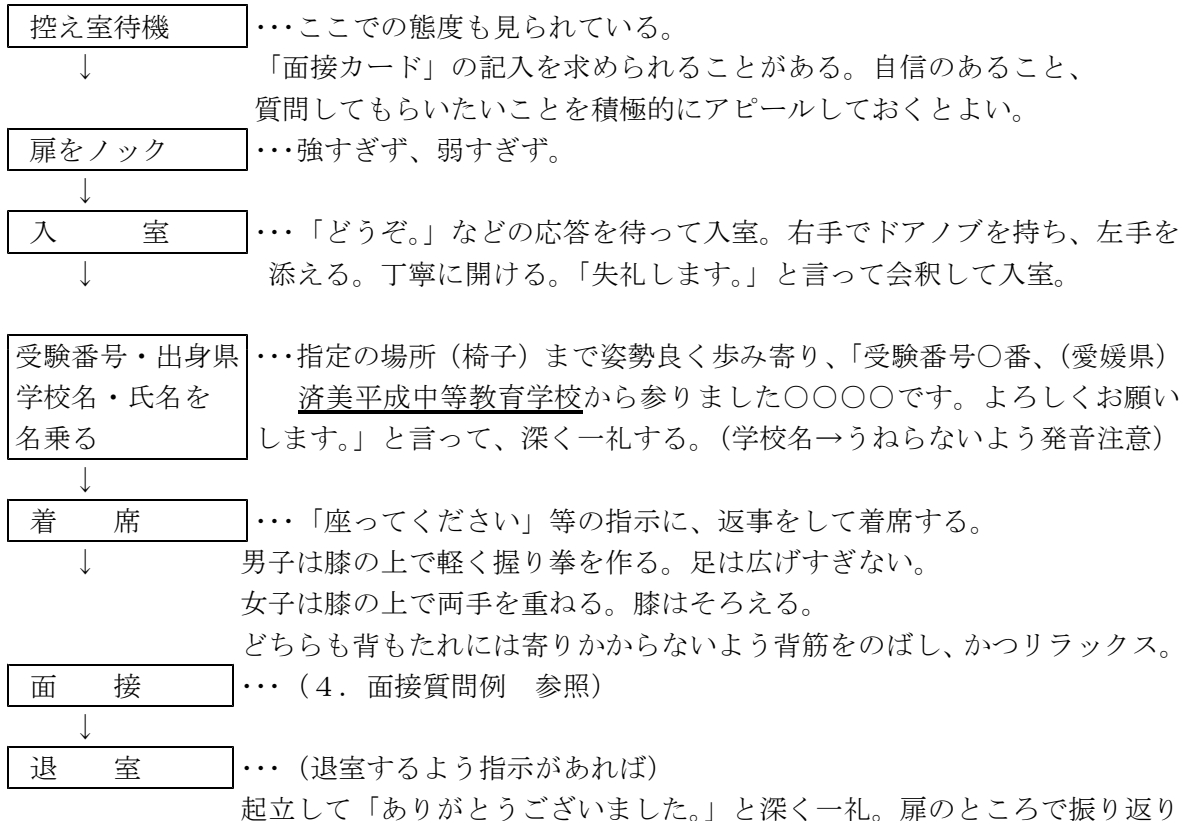
2. 面接の内容

- (1) 一般的な面接…志望の動機、個人の考え方や将来に対する指針、性格、高校での活動などを問う、基本的なパターン。
- (2) 口頭試験を兼ねる面接
 - …専門分野に関わる問いかけを含む場合や、あらかじめ文章や資料が与えられ、それらについて質問される場合などがある。
- (3) プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど
 - …発話の主体が受験生側にあるケース。課題を与えられ、それについて語る、又は発表する、など。募集要項などで情報収集をしておく。練習も不可欠。

特に「口頭試験」となっていない場合でも、専攻分野の基礎知識に関わることが質問されることはよくある。また傾向が告知無く変更される場合もある。いろいろな面接パターンを想定して練習しておくことが必要である。

国際関係や英語関係の場合、英語での質問がなされることがよくある。簡単な自己紹介や志望の動機を英語で言えるようにしておく、いざというとき焦らずにすむ。

3. 面接の流れ (例)



「失礼しました。」と会釈して退室。丁寧に扉を閉める。
大学の門を出るまでが面接試験だと心得る。適度な緊張感を持続させる。

4. 面接質問例

	質問例	留意点
志望動機	・なぜこの大学を受験するのか？ この大学を知ったきっかけは？	大学の特徴をつかんでおく。
	・なぜこの学部・学科を選んだのか？	自分のしたいことをはっきり述べる。
	・将来何をしたいか？	少なくとも方向性を示す。
	・オープンキャンパスの印象は？	関心・意欲を示す。
専攻関係	・その分野について知っていることは？ … ニュースの話題など	漠然としたイメージだけでは不十分。 新聞・TVニュース・本などを活用。 明快にしておく。
	・その分野に進学する上で求められる資質は何か？	
	・自分がその分野に向いている点は何か？	自己分析しておく。
本人について	・性格（長所・短所）は？	自己分析しておく。
	・高校時代印象に残っていることは？（注※）	「(本校での) 6年間で」と考えてよい。 わかりやすく具体的に。
	・高校時代がんばったことは？	
	・部活動は？	「同好会活動」と読み替えて答えてよい。
	・得意な教科・苦手な教科は？	素直に。ただし志望分野を考慮する。
	・友人とどんな対話をするか？	普段の対話のレベルを上げる。
	・最近読んだ本は何か？	朝の読書を利用。
	・興味のあるニュースは？	新聞には毎日目を通す。
・自己PR（1分間 など）してください。	時間制限に惑わされず、どんどん話す。	
出身校	・出身校の正式名称は？ 済美平成中等教育学校	イントネーションに注意。 平坦に言う。うねらないように。
	・「中等教育学校」とは何か？	一般的な「中高一貫校」との違いに注意。
	・済美高校との関係は？	同じ学園。きょうだい校。
	・創立年・学校名の由来？	本校HPなど参照。
	・学校の特徴は何か？ (自分のいいと思うところ)	現状の良い点をみつけられることは、今後の学生生活をいいものにすることに繋がる。
他	・履修科目は？	
	・愛媛はどんなところか？	身近すぎて普段考えたことがないことを質問されることもある。
	・住んでいる町を簡単に紹介してください。	

注※

面接官は「高校」ということばを使うのが一般的である。本校は「中等教育学校」であり、一般の高校に当たるのは「後期課程」である。きちんと説明でき、用語を使えるようにしておく。

くこと。6年間通う学校である。きちんと説明できて当たり前だと心得よ。

V 注意事項

1. 身だしなみ

面接に「付け焼き刃」は通用しない。面接官の目は鋭い。「受験日当日ちゃんとする」という考えでは見抜かれる。普段からの実践が大切である。

<身だしなみチェックポイント>

- ・さっぱりした髪型
- ・クリーニングした制服
- ・襟元・袖口をきちんと留める
- ・靴を磨いておく（きれいにしておく）
- ・ポケットの中身を整理、上着をすっきりと着こなす
- ・眉に手を入れすぎない

ある大学の先生に「面接でチェックするポイントはどこですか」と伺ったところ、「服装・身だしなみですね」と即答されたことがある。高校の制服さえきちんと着こなせない生徒は、大学入学後生活の乱れがあり、学業どころではなくなるケースがあるからだそうである。着崩し・乱れにつながるおしゃれはおしゃれではないということ。自分の姿を鏡に映して考えてみよう。身だしなみを整えることは相手に対する礼儀でもある。

管理上、鞆などの持ち物を面接会場に持って入るよう指示されることがある。持ちやすくまとめやすいようにしておくこと。落ち着いて面接を受けることにつながる。

2. 目線・表情

アイコンタクトは非常に重要である。「礼」の前と後に必ず相手の目を見ること。それだけで印象がよくなる。逆に目を見ない礼は礼をされた気がしない。

応答の時は、さらに目線が重要である。目を見ずに話しても説得力はない。

目を見て話すのが苦手な人は、相手の眉の間や鼻の辺りに焦点を当てるようにするとよい。相手からすれば違和感はなく、自分は落ち着いて話せる。

面接官が複数いる場合、1人だけをみつめるのではなく、発問された方を中心に、全員に適度に視線を充てること。「きょろきょろ」した感じにならないよう気をつけよ。

生き生きした表情で話す人には好感が持てる。上手でなくてもいいから、自分の興味のあることについて熱く語る。そうすれば必ず伝わる。面接は「対話」そのものである。お互い対話を楽しむようにすることで、成功への扉が開かれる。

3. 声

自分で思うより意外に声が出ていないものである。授業中の発言で聞き返されることがある人は、要注意。面接の場合は聞き返してもらえず、返答がなかったとみなされることもある。

いくらいいことを言っても伝わらない。ちゃんと聞こえる声を出すことは、相手に対して思いやりがあるということでもある。

たとえ地声が小さい人でも、おなかに力を入れ（腹式呼吸）、口をしっかりと開けてはっきり言うようにこころがけ、張りのある声を出すように努めれば、格段にレベルアップする。

発話したとき、相手の表情を観察すること。とまどいが浮かんでいるようなら、大きめの声で繰り返したり言い方を変えてみるというような対応を。「間違っただけを言ったのかも・・・」と引いてしまいそうだが、実際は「声がよく聞こえなかった」というケースが多い。相手の反応を見て対応することも、思いやりのひとつである。

4. 言葉遣い

自然に丁寧な言い回しができるようにすること。社会人一步手前だということを意識せよ。そのためには、日常生活で敬語を使うこと。

5. 口頭試問・意表をつく質問

専門知識を問われたときの確に答えるためには、普段から「自分の考えを持つ」「即座に答える習慣をつける」ことが第一歩である。授業中の先生からの質問に、常に自分の答を用意しているか、自己に問いかけよ。指名されてから考えるのでは遅い。あらゆる問いかけに対して頭を働かせること。あなたの脳はどんなコンピューターよりも優れているはずである。稼働させよ。

意図的に受験生の意表をつくような質問がなされる場合もある。（例：「自分を動物に例えると何ですか」）これは答えそのものよりも、どう反応するか・臨機応変に対応できるかを見るものだと考えられる。驚きは素直に示してもよいから、楽しんで答える余裕が欲しい。いきなり時事問題を問われることもある。時代についていく意識も必要である。

6. 面接練習は毎日出来る

「今回の受験にあたって面接を必要としない」という生徒もこころがけて欲しい項目である。将来社会人となったとき必要。就職の面接の時も同じである。

<今日から、今からできる面接練習>

- ① 常に身だしなみを整える。（身だしなみは相手に対する礼儀）
- ② 授業の始め・終わりの礼を、気持ちを込めて深々とする。（前後に先生の目を見る）
- ③ 授業中の発言は、視線を上げて張りのある声で行う。（届いているかどうか確認）
- ④ 相手の目を見て話す。聞く。
- ⑤ 廊下をきびきびと、かつ優雅に歩く。出会う人（特に先生方・客人）に会釈する。
- ⑥ 扉の開閉を両手で行う。
- ⑦ 年上の家族や先生と話すとき、敬語を使う※。対話の機会を増やす。
- ⑧ 言葉を節約しない。単語の羅列ではなく、文章で話す。要領のいい説明を心がける。なぜそうなのかがわかるように、論理的な文章の組み立てを考える。
- ⑨ 新聞・ニュースに目を向ける。自分はどう思うか考える。
- ⑩ ⑨について家族や友人と話し合う。普段の対話のレベルを上げる。

⑩ 発問されたとき常に自分の答えを用意する。

面と向かって話すときだけでなく、第三者に目上の人のことを話すときも「〇〇先生がこうおっしゃった」「今いらっしゃらない」というような表現が自然に使えるように。

VI 終わりに～自分を育てよ～

毎年受験生の面接練習に関わって感じるのは、面接にはそのひとの人柄が現れるということである。心の底に温かいものが流れているならきっと伝わる。また、今までどのような活動をしてきたかということも大いにものを言う。同好会、学校行事や HR 活動などで自分のできることをしてきた、何らかの形で自分の興味を追究してきたと言う人は、それ相応に「語るべきもの」をみつけることができるものなのである。

中には深い考えがない・感謝の気持ちが少ないといった自分の欠点に気づき、厳しさに直面する人もいる。そういうことに気づけることも力のうちであり、これからのあなたの人格形成に必ずプラスに働くはずである。

全ての経験があなたを育てる。逃げ出さず向かい合うこと。扉を開くのはあなた自身である。自分が何をしたいのか・何ができるのかをよく考え、自らを育てながら進路を切り開いていくて欲しい。

<補足>

- ・一般入試においても「調査書」から質問されるケースがある。面接練習時にそういうことを意識しておくとうい。 (担任の先生と相談。面接練習担当者と連携。)
- ・「中等教育学校とは何か」「『済美平成』の名の由来は」といった質問に適切に答えられないケースがあり、残念である。これは我々の問題でもあると感じるが、個々人でもふりかえてみよう。
- ・ネット時代ゆえ、新聞から遠ざかっている生徒が増えているように思う。しかし、新聞紙面には「ニュース」以上のものがあり、必読であると感じる。1日に5分でも新聞を読もう。見出しを拾う以上の読み方を重ねると考え方に深みができる。
- ・将来について考えてみよう。自分がどうしたいか、ということだけでなく「〇年後の日本/世界がどうなっているか」ということをイメージしてみることも大事である。

自己分析カード（例）	年 組 番 氏名
受 験 大 学 に つ い て 自 分 に つ い て 出 身 校 に つ い	志望大学正式名称（学部学科等含む）
	<ul style="list-style-type: none"> ・当大学志望理由 ・当学部志望理由 ・当大学（学部）の特徴 ・当大学を知ったきっかけ ・これからどんな勉強が必要か ・履修したい科目 ・当大学で知っている教授（等）や研究・どういうことで知っているのか ・興味のある研究室 ・卒業後の希望進路（職業） ・その学部・職業に求められる資質は何か
	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の展望 ・自分の特徴・・・趣味／特技、特記すべき活動（皆勤ならPR）、資格、興味を持っていることなど ・性格（長所・短所） ・希望進路への適性 ・得意・苦手教科 ・自信のあること ・部活動 ・高校生活で印象に残ったこと ・高校生活でがんばったこと ・友人とどんな対話をするか ・興味のあるニュース ・最近読んだ本
<ul style="list-style-type: none"> ・正式名称 ・所在地の説明 ・創立年・学校名の由来など ・「中等教育学校」とは何か（数多い「中高一貫」の学校との違いは何か） ・済美高校との関係 	

て | ・学校の特徴・自分がいいと思うところ

「面接ノート」を作り、上記のような事柄についてまとめたり、志望学部に関わる新聞記事をスクラップしたり、面接練習を受けた場合の内容や注意点を書きためていったりするのも良い考えである。